

おひさま ニュース

2025

新年号

1月15日発行



ホームページ

予約センター
(日曜・祝日除く)

☎0470-25-5121

平日 8:30~17:00

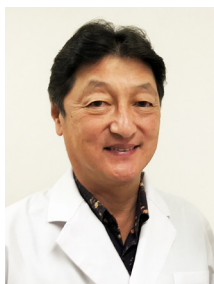
土曜 8:30~12:00

〒294-0014 千葉県館山市山本1155番地 TEL:0470-25-5111 <https://www.awairyo.jp/>
発行責任者：福内正義 編集責任者：根本達也

新たなチャレンジ ～地域のために～

社会福祉法人太陽会

理事長 亀田信介



明けましておめでとうございます。

今年は、4月に館山市の北条幼稚園と中央保育園を統合する形で、公私連携幼保連携型認定こども園「OURS館山」が開設されます。園の定員は約300名で、朝5時30分から夜9時30分まで、365日開園します。園内に厨房を持ち、昼食だけでなく予約すれば朝食や夕食にも対応可能です。今後は園児や保護者のニーズを伺いながら、地域の学習塾やスポーツクラブと連携した「OURSアカデミー」など、保護者が働きながら安心して子育てができる環境作りに取り組んでまいります。また、去年は日本における出生数が70万人を切りました。安房地域でも急激な少子化が進んでおり、今年中に85歳以上の人口が、15歳未満の人口を抜くと予想されています。「OURS」の取り組みが、少しでも少子化の歯止めになればと願っています。

4月より安房地域医療センター内に、眼科が新設(予定)されます。安房地域は高齢化が進み、眼科のニーズが非常に増加していますが、十分には対応できていません。新設予定の眼科では、白内障の手術は勿論、網膜硝子体手術など、様々な眼科疾患に対応が可能となります。一方、安房地域医療センターのスペー

ス不足は限界に達しています。患者さまや職員にも、大変なご不便をおかけしています。特に、当院が担っている検診事業においては、人間ドックなどのニーズに制限をしなければならないのが現状です。しかし、現在のスペースやシステムで、今以上の対応は難しく、新たな独立型健康管理センターの建設に着手したいと考えています。

少子高齢化、人口減少の中、日本の社会保障は、破綻しつつあります。去年は診療報酬や介護報酬の見直しがありましたが、医療機関や介護施設の経営状況は、前年より悪化しました。これは実質的なマイナス改定でありました。当院は、病床稼働率の上昇、外来患者数の増加等により、収入は大きく増加しましたが、物価や給与の増加により支出も大幅に上昇いたしました。職員の頑張りには本当に感謝いたしますが、公定価格による現在の構造には限界があります。救急医療や無料低額診療など、当院が担ってきた医療サービスを継続するためには、自由診療である検診事業をさらに推し進めるなど、病院事業の構造改革に取り組む必要があります。医療制度において事実上の制度破綻を起こしたとしても、行政が責任を取ることはないでしょう。しかし、私たちはこの地域に、適切な医療や介護サービスを提供し続ける責任があります。お互いに知恵を出し、協力し合い、安心して住み続けられる地域づくりにチャレンジしたいと思います。



診療科のご紹介

内科系	総合診療科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	膠原病・リウマチ内科		小児科
	腎臓内科	腫瘍内科	脳神経内科	糖尿病甲状腺内分泌内科		健診	
外科系	外科	外科 肛門病センター		整形外科	泌尿器科	婦人科	乳腺科
	スポーツ整形	皮膚科	脳血管内治療科				
その他系	救急科	透析科	麻酔科	リハビリテーション			
専門外来	人工関節外来	脊椎外来	手の外科	痛みの外来	禁煙外来	総合スポーツ・運動処方外来	
	ウロギネ・ヘルニア外来		骨粗鬆症外来	発達相談			

救 急 科

当院の救急センターは、地域の「暮らしを守る救急医療」の提供を目指して、スタッフ一同365日休むことなく稼働しています。



当センターは一次と二次救急の救急指定を受け、地域のみなさまの急病に対応していますが、三次救急を担う病院ではなく、特に夜間は医療資源も人員も限られています。

人口減少に伴い、安房地域でも医療過疎化が深刻な状況にあります。高次医療機関である亀田総合病院や君津中央病院まで救急車で片道40分程度かかるため、重症の患者さまでも当院で応急処置をすることで治療回復に貢献すると判断した場合、一旦お受けして初期治療を行うようにしています。また、当院かかりつけの患者さまでも、救急外来の医師とは初対面となる場合が多く、病歴の把握に時間を要する場合があります。さらに、緊急度に応じた診療のため、数時間以上お待ちいただくことも多々あり、おつら

い症状の中でお待たせして、心苦しく思いながらもご理解いただけることに感謝しております。

2022年度病床機能報告によると、当院は年間2,834台の救急車を受け入れ、150床未満の病院規模で2,800台を超えるのは県内で当院のみで、安房医療圏内でも最多の受け入れ実績です。その反面、2024年3月の統計では救急科専門医は全国で5,909名しかおらず、日本の総人口で単純計算すると2.1万人に1人の割合です。さらに専門医は大病院に局在する傾向があるため、地方では不足が顕著です。こうした状況を踏まえ、より地域のみなさまの生活の支えになれるよう、若手医師の育成や体制強化に尽力していきたいと考えております。

これからも地域のみなさまに寄り添いながら、一步一步進んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なかやま えみ こ
中山恵美子

出身地：地球

趣味：自宅をDIY改装

房総の好きなおところ：明るく元気！



けんしん通信

Vol.4

～ これからの健康診断 ～

健診室 室長 鈴木基郎

2024年9月の時点で、安房地域でも100歳以上の方が200名を超えていると地方新聞で伝えられています。超高齢化社会に突入した日本においては、「健診のあり方」も各所で検討されているところです。今までの健康診断

は内科検診が主でしたが、これからは内臓疾患



だけではなく、ロコモティブシンドローム（運動機能低下）などのフレイル（虚弱）に対する診断、口腔機能の維持のための歯科検診、認知機能の健康診断、心の健康などがより求められる時代となっていくことが考えられます。当院でも今後そのような需要に対応できる健診施設を目指してまいります。

手術の流れと関わるスタッフ

手術室 師長 長谷川 努



当院の手術室では、主に、整形外科、泌尿器科、外科、乳腺科、婦人科の手術を行っており、

2023度は1年間に1,000件以上の手術を実施しました。私たち手術室のスタッフは、患者さまが安全で安心な手術を受けていただけるよう、細やかな気配りを大切に、手術という重要な場面を支えています。

手術が始まる前には不安を感じる方も多くいらっしゃいます。そのため、全身麻酔で手術を受ける患者さまには術前訪問を行い、手術に対する不安を伺ったり、手術室に入室して麻酔導入されるまでの流れを説明したりすることで、少しでも安心していただけるよう努めています。

全身麻酔の手術では、患者さまは麻酔で眠っている時間が長いので、あまり気が付かないかもしれませんが、様々な職種や役割のスタッフが関わって連携しています。患者さまの安全を第一に考え、それぞれの役割を遂行していますので、ここで主な役割をいくつか紹介いたします。

まず、手術で執刀するのは医師ですが、医師の中でも執刀医を介助する役割や、手術の進行に合わせて麻酔の状態を調整し全身管理する役割の医師もいます。

看護師は、直接介助と間接介助という役割があります。直接介助は、患者さまが安全かつ円滑に手術を受けられるよう、手術に使用する器械を確実に医師へ手渡し、そして確実に回収して管理します。間接介助は、麻酔科医と連携して患者さまの全身状態を観察し、必要なサポートを行います。全身麻酔の手術では、患者さまは眠っている状態なので、寒くても辛くても自分で訴える

ことはできません。体温の低下を最小限におさえるよう保温したり、長時間の手術でも皮膚や神経が損傷しないよう工夫して体位を固定したりすることは、手術室の看護師として大事な役割です。また、手術の進行に合わせて直接介助の看護師と連携し、手術が円滑に進行するよう必要な物品を管理していきます。

その他にも、行う手術の種類により様々な職種が関わります。例えば、骨折の手術で折れた骨のズレを戻したり、固定するスクリューの位置を確認したりする際には、放射線を使った映像を確認しながら手術が行われるため、診療放射線技師が携わります。また、手術では麻酔器など高度な医療機器が使用されるため、患者さまが入室される前に臨床工学技士が点検を行っています。さらに臨床工学技士は、内視鏡やレーザーなど専門的な医療機器を使用する際には、それらが安全に取り扱われるよう手術の立ち会いも行います。

看護師は手術後も、患者さまの回復が順調に進むよう見守る大切な役割を担います。手術室から回復室へ移った後、異変を早期に発見するために、麻酔や手術による身体の変化をしっかりと観察し、痛みや出血などの兆候がないかをチェックします。また、術後の患者さまが安心できるよう声をかけたり、不安や苦痛を伺ったりすることで心のケアも行います。

手術を受ける患者さまにとって、それは人生の中で重要な瞬間のひとつです。手術室の看護師や関わるスタッフは、一人ひとりの患者さまの大切な瞬間を支えているという仕事に誇りを持ち、地域みなさまが安全で安心な手術を受けていただけるよう努めてまいります。



トピックス

今春
オープン

眼科情報

● 眼科受診予約について

眼科新設に向けて準備を進めています。受診予約や外来日などについての詳細は、当院のホームページや院内掲示等でご確認ください。



● 眼科新設改修工事のお知らせ

現在、本館2階の改修工事を行っています。状況により駐車場を含む施設内の一部利用制限や騒音・振動など、ご来院のみなさまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

認定スクールトレーナー
取得

当院リハビリテーション室の松澤啓之理学療法士が、運動器医療の専門資格である「認定スクールトレーナー」を取得しました。この資格は、運動器（骨や筋肉）の健康に関する高度な知識と臨床技術を持ち、学校の求めに応じ、医師と連携して学校保健の現場で活動する専門家です。学生の健康チェックやけが予防の指導を行い、安全な運動環境をサポートします。これらの活動により、地域の学生たちが健やかに成長できる環境作りに貢献します。

編集
後記おひさまニュース
バックナンバー

今年は、太陽会や安房地域医療センターにとって、「はじまり」となる新たな一歩を踏み出す飛躍の年となりそうです。医療や健診（検診）、こども支援など、地域に根ざした存在を目指し多角的な取り組みがはじまります。当院において

千葉県看護功労者
知事表彰を受賞

11月19日(火)当院看護師の山岸智子さんが千葉県看護功労者知事表彰を受賞しました。千葉県安房地域部会の役員を11年間(会長・副会長含む)務めた功績が認められ、千葉県の医療向上への貢献が評価されました。山岸さんは看護師長として永年にわたり職務を全うし、多くの後輩の育成に尽力してきました。現在も病棟師長として、その豊かな経験と確かな実力を発揮し、患者さまやスタッフから厚い信頼を得ています。

※ 山岸さんのコメントは当院ホームページをご覧ください。

中学生職場体験

11月20日(水)と21日(木)の2日間、「館山市中学生職場体験学習」が実施され、2年生11名の生徒さんが参加しました。働くことを通し交流する中で、仕事の大切さやすばらしさを知り、将来の自分の職業を考える機会となることを目的としています。



体験部署は、看護部(病棟)、薬剤室、画像診断室、臨床検査室、リハビリテーション室、ME室、保育室と多岐にわたり、患者さまや付き添いとして来院しただけでは知ることのできなかった職業や職場をたくさん体験することができました。

は、今号で掲載されている健診室や手術室は、大きく変わろうとしています。亀田理事長が巻頭言で紹介している事業は、今後もさらなる展開が期待されます。安房地域のみなさまとの結びつきとお力添えとともに、さらなる飛躍に向かって邁進いたします。



じゅんべりい